

バーチャル雪まつり1997

報告書



バーチャル雪まつり
Virtual Snow Festival 1998

● SINCE 1996

企画書

バーチャル雪まつり1998

はじめに

バーチャル雪まつり(VSF)はインターネット上での雪像のコラボレーションアートプロジェクトです。参加者は、小学生・中学生・高校生、かれらの先生達そして、このプロジェクトに興味をもっているすべての人々です。バーチャル雪まつりは彼らがつくったり、イメージしたものを公開する場があります。それゆえ、人々はネット上でアイデアをだしあったり、意見を交換したりできるのです。

北国に住んでいる人々のなかには、雪像の作り方を知っているので、実際に雪像づくりに参加するため集まります。冬、雪のあまり降らない地域に住んでいたたり、雪像の作り方を知らない人々も、ネット上で意見やアイデアの交換ができるこのプロジェクトに参加できます。話し合いを通して私たちは雪祭りの行われている2月のはじめに札幌の大通り公園で実際に雪像をつくります。

たとえ 夏であっても雪像のたくさんのイメージを集める事ができるでしょう。いくつかのイメージはペイントされ、他のイメージはデジタルに描かれます。私たちはインターネットやデジタルテクノロジーを使って、雪像について世界規模でリアルタイムに話し合いがもてます。

バーチャル雪まつりの目標・目的

このプロジェクトの目標・目的は、札幌雪祭りで共同作品をつくりあげること、そしてインターネットを通じて幅広くディスカッションをすることです。

バーチャル雪まつりへの参加方法

バーチャル雪まつりは、インターネットの電子メール会議室でみんなが自由に話し合いをしながら共同で雪像のアイデアを考えていく参加型のアートフェスティバルです。

参加の方法は、電子メールで住所、氏名、性別、学校名、学年、参加の抱負を VSF 事務局に送るだけです。また、メールアドレスがなくても発言や絵を提案できる会議室もオープンしました。こちらで参加登録をして会議室に参加してください。

インターネットを使えない場合はファックスなどで雪像のアイデアを出すことで参加することも可能です。

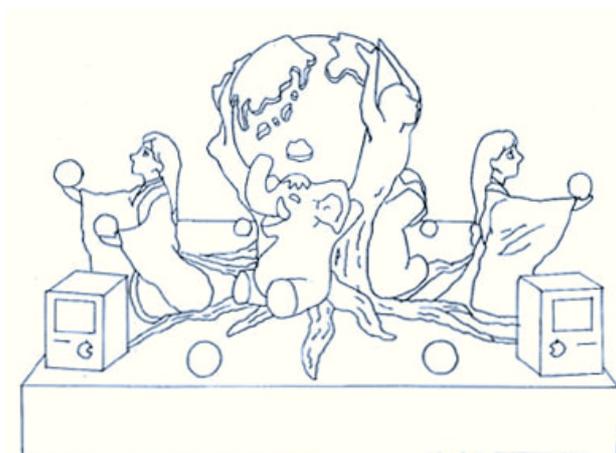
バーチャル雪まつり '97 の活動

参加した子供たちは様々な方法でコミュニケーションし、アイデアを練り上げていきました。

- (1)電子メールでの意見交換
- (2)HomePage の開設
- (3)WebBoard (WWB) 上での意見交流
- (4)CU-SeeMe (インターネットの電子会議システムの一つ) による意見交換
- (5)Painter (コンピュータネットワークを介して共同製作できる作画ソフト) を使った原画を検討

Virtual Snow Festival

バーチャル雪まつり '97 の最終案



テーマ：We are the one !

～地球上のすべてのものたちが共存し、未来に向けて地球を支えていこうという意思と希望をこめて～

作画：

北海道札幌新川高等学校 1年 牛坂 安希
(Ushizaka,Aki)

神奈川大学附属高等学校 3年 箕輪 真人
(Minowa,Masahito)

コンピュータやインターネットといった最新技術によって私たちは素晴らしい出会いがありました。しかし、その技術発展の影には自然破壊という大きな犠牲を負っていることを忘れてはならないのです。

この雪像は、「出会い」がテーマです。自然と文明、過去・現代・未来、そしてマンモス、伏姫は時代を越えて、今私たちと出会った訳です。

ネットワークの先には常に人間が存在します。どんなに技術が進歩しても忘れてはならないのは私たち一人一人が8つの玉の意味を再認識して未来への希望を持っていくことだと思ふのです。

バーチャル雪まつり '97 の製作

この最終案をもとに1月末～2月始めに、札幌雪まつり大通会場(大通8丁目・HBC広場)で札幌市内・近郊の小～高校生が実際に製作にあたりました。また、雪まつりには原案を提案した神奈川の高校生も来札し一緒に製作にあたりました。

なお、バーチャル雪まつりの様子は北海道新聞、北海タイムスなどの新聞紙面、HBCのニュース、TBS「ニュース23」の特集などのTVで紹介されました。



Virtual Snow Festival

バーチャル雪まつり '97 の参加校

- ・造形教室アトリエアイリス
- ・札幌市立開成小学校
- ・熊本大学教育学部附属小学校
- ・東京都北区立赤羽台西小学校
- ・長陽村立長陽西部小学校
- ・札幌市立福井野中学校
- ・札幌市立南が丘中学校
- ・千歳市立青葉中学校
- ・長陽村立長陽中学校
- ・札幌市立笈寒中学校
- ・浦河第一中学校
- ・鹿児島県出水郡東町立鷹巣中学校
- ・北海道札幌新川高等学校
- ・神奈川大学附属中・高等学校 (順不同)

バーチャル雪まつり '97 の参加協賛団体

- ・第 48 回さっぽろ雪まつり実行委員会
- ・教育とコンピュータ利用研究会 (ACE) 北海道支部
- ・(株) 経営情報センター
- ・ハローねっとジャパン北海道
- ・全国小学生の輪
- ・メディアキッズ
- ・北海道放送
- ・Apple Computer
- ・BUG
- ・NTTDoCoMo 北海道
- ・NTT パーソナル北海道
- ・東京インターネット
- ・(株) アステック
- ・ダーフレックス
- ・フェーブル
- ・(株) ネットファームコミュニケーションズ
- ・(株) エセルテ・ジャパン (順不同)

Virtual Snow Festival

バーチャル雪まつり 1998 で目指すこと

バーチャル雪まつり 1998 では、今まで行ってきたことの実験を生かし、さらに参加の輪を増やしていくとともに、「ネットワーク上のコラボレーション」という要素を、新しい取り組みを取り入れながら強化していくことを考えています。

特に、活動の中心となる「学校」のネットワーク環境はまだ未成熟で、自由なコラボレーションを行うには最大限の工夫が必要です。我々が過去二回の実験から、今回目指すこととして、

- ・ E-mail のアカウントを持たない人達でも参加できる会議室を設ける！
- ・ 言語に依存せず、ビジュアルなコミュニケーションを行う！

この二点を挙げ、具体的には次のような仕組みを利用させていただくことを考えております。

メイン会議室「B B W」

コラボレーションを進めていくための会議室には(株)アステック(東京インターネット代理店)提供のサーバーレンタルサービス TokyoWeb の「B B W」を利用しています。特にメールアドレスを持っていなくても、Web さえ見ることが出来れば会議に参加する事が出来ます。画像などを添付することも可能で、協働作業とその経過を簡単に一覧できます。

(ユーザ登録先・<http://www.miceng.co.jp/VSF1998/meeting.html>)

ボトルメールプロジェクト

(株)リクルートが開発しているボトルメール(システム)とは従来の電子メールとは全く異なり、いつ、誰に届くかわからないという奇妙なメールシステムです。

(開発元ホームページ・<http://www.kids.recruit.co.jp/bmail/gaiyou-top.html>)

この仕組みをバーチャル雪まつりのコラボレーションに応用させるため、現在開発元と話し合いを進めています。

ボトルメールを使うメリット

送受信されるメッセージは全て「絵」のデータなので言語に依存しない全世界的なコミュニケーションが可能であると思います。

操作画面に言語を一切使用していないため、世界中のwindowsマシンで使用が可能です。

同じアカウントのボトルメールをダウンロードするだけで参加することができます。

アイコンのみで操作できるため、キーボードを打てないような子ども、初心者にも利用しやすいと思います。

ボトルメールで発信した絵は誰に届くかわからないので、届いた人間は自分たちの出来る環境の中で VSF 会議室にあげていきますが、ただ「こんなのがきました」という報告のみにとどまらず、そこから加工をして進化させながらやりとりを進めていくことが出来ます。

Virtual Snow Festival

バーチャル雪まつり '98 の参加予定校 (1997 年 9 月現在)

- ・造形教室アトリエアイリス
- ・札幌市立開成小学校
- ・東京都北区立赤羽台西小学校
- ・長陽村立長陽西部小学校
- ・札幌市立福井野中学校
- ・札幌市立啓明中学校
- ・札幌市立北野台中学校
- ・千歳市立祝梅小学校
- ・千歳市立青葉中学校
- ・千歳市立富丘中学校
- ・長陽村立長陽中学校
- ・札幌市立発寒中学校
- ・浦河第一中学校
- ・鹿児島県出水郡東町立鷹巣中学校
- ・北海道札幌新川高等学校
- ・神奈川大学附属中・高等学校
- ・北星学園女子短期大学
- ・札幌音楽専門学院 (順不同)

バーチャル雪まつり '98 の参加協賛団体 (1997 年 9 月現在)

- ・第 49 回さっぽろ雪まつり実行委員会
- ・教育とコンピュータ利用研究会 (ACE) 北海道支部
- ・(株) 経営情報センター
- ・ハローねっとジャパン北海道
- ・全国小学生の輪
- ・メディアキッズ
- ・北海道放送
- ・Apple Computer
- ・BUG
- ・NTTDoCoMo 北海道
- ・NTT パーソナル北海道
- ・東京インターネット
- ・(株) アステック
- ・ダーフレックス
- ・フェーブル
- ・(株) ネットファームコミュニケーションズ
- ・北海道新聞社 情報開発本部
- ・(株) 道新メディック
- ・(株) リクルート (順不同)

Virtual Snow Festival

むすびに～さらなる交流の輪を

札幌雪まつりは1949年に札幌の大通り公園で始まりました。最初はそれは小さな雪像でしたが、厳しい北国で暮らす市民の夢と希望を受けどんどんと大きくなっていきました。現在このお祭りは日本だけでなく、世界中で有名になりました。それゆえ、雪像をつくり海外からもたくさんのチームが参加します。雪の多く降らない国や地域の人々に、雪像づくりの楽しさや私たちの北の文化を理解してもらうためです。

教育とコンピュータ利用研究会（ACE）北海道支部のプロジェクトの一つとして1995年9月にスタートしたバーチャル雪まつりプロジェクトも多くの賛同を得て、回を重ねる毎に参加校が増えています。私たちを取り巻く社会では新しいメディアとしてのインターネットが浸透しつつあります。これは教育の場においても例外ではありません。21世紀からの留学生である子供たちがこのバーチャル雪まつりプロジェクトで語り合うことのできる夢と希望、そしてここで得ることのできる経験は将来にわたって計り知れないものがあると考えます。

今年もいよいよ札幌雪まつりの準備がスタートしようとしています。バーチャル雪まつりが今年度も子供たちの活発なディスカッション・コラボレーションの場となることを願っています。

Virtual Snow Festival
